

## 訂正表

### サンスクリットトレーニング I

- p. 5, 9 runadh- → ruṇadh-
- p. 16, 9 √ji [jayati] ①勝つ、征服する → ①勝つ、征服する、君臨する
- p. 16, 13 √vah [vahati] ①運ぶ、流れる、曳く → ①運ぶ、流れる、曳く、持っている
- p. 26, 4 ati (+Ac.) ～を越えて、～の上に → ati (+Ac.) ～を越えて、～の上に、～に勝る
- p. 26, 12 upa ～近くに、～下に、～の後に (+Ac.)  
→ upa ～近くに、～下に、～の後に、～に劣る (+Ac.)
- p. 30, -9 7. 木 (pl.) が井戸の近くに育つ。 → 井戸の近くに木々 (pl.) が育つ。
- p. 31, 16 8. 男が米を蒔く。 → 男が籾を蒔く。
- p. 31, 5 12. 木 (pl.) は葉 (pl.) を運ぶ。 → 木 (pl.) は葉 (pl.) をつけている。
- p. 40, -9 7. 人は月をながめて満足する。 → 人は月をながめて喜ぶ。
- p. 41, 4 19. 彼は、かむ。 → 彼は、噛む。
- p. 41, 8 23. 少年達は踊り王は座っている。 → 少年達は踊り、王は座っている。
- p. 41, -16 5. 鳩達は、噛みません。 → 鳩達は、咬みません。
- p. 41, -14 7. 私は遊びそして満足する。 → 私は遊びそして喜ぶ。
- p. 41, -6 15. 鳥は果物に穴をあける。 → カラスは果物に穴をあける。
- p. 43, -10 शृगालः śṛgālah ジャッカル → キツネ
- p. 44, 12 狼 → キツネ
- p. 46, 12 śṛgālah ジャッカル、狼、山犬 → ジャッカル、キツネ
- p. 47, -9 ९ आचारः सुकहं सृजति → आचारः सुखं सृजति
- p. 51, 6 4. 飾り (pl.) によって人は満足する。 → 飾り (pl.) によって人は喜ぶ。
- p. 51, 15 1. 月を少年達に彼らは、指し示す。 → 彼らは、月を少年達に指し示す。
- p. 51, 16 2. 食事を得るために家に私は行く。 → 食事のために私は家に行く。
- p. 51, 18 4. 国のために英雄は家を捨てる。 → 国のために軍人は家を出る。
- p. 51, -10 3. 家のまわりをジャッカル (pl.) が徘徊する。  
→ 家のまわりをキツネ (pl.) が徘徊する。
- p. 52, -14 10. ジャッカルは食物を見つける。 → キツネは食べ物を見つける。
- p. 52, -6 14. 彼はジャッカルを見て走り去る。 → 彼はキツネを見て走り去る。
- p. 62, -8 2. 村の外にジャッカルたちは住んでいる。 → 村の外にキツネたちは住んでいる。

- p. 62, -7 3. 幸せでなければ人々は酔わない。 → 楽しみなしに人々は喜ばない。
- p. 64, 7 3. 馬とジャッカルは獣である。馬とキツネは獣である。
- p. 67, 6  $\sqrt{\text{cur}}$  (盗む) →  $\sqrt{\text{cur}}$  (盗む) (P)
- p. 67, 6  $\sqrt{\text{dhr}}$  (負う) →  $\sqrt{\text{dhr}}$  (負う) (P)
- p. 72, -16 2. おお、少年達よ！火の中に薪をあなた達は投げている。  
→ おお、少年達よ！火の中に薪を投げ入れなさい。
- p. 72, -7 10. やあ、先生！子供達の行儀をあなたはとがめる。  
→ やあ、先生！子供達の行儀をとがめなさい。
- p. 72, -5 11. 私は召使いに二つの花を託す。 → 私は召使いに二つの花を渡す義務を持っている。
- p. 73, 5 19. 親戚 (pl.) の家より男は財産を盗む。 → 親戚 (pl.) の家から男は財産を盗む。
- p. 73, 11 2. 幸せに人々は酔い、苦しみに人々は、疲れる。  
→ 幸せの中で人々は喜ぶ、苦しみの中で人々は、疲れる。
- p. 73, 14 4. 二つの村の中の井戸 (pl.) の中には水が無い。  
→ 二つの村の井戸 (pl.) の中には水が無い。
- p. 73, -16 9. 王の宝石 (pl.) を私は整える。 → 王の宝石 (pl.) を私は作る。
- p. 73, -14 11. 召使い達よ！葉 (pl.) を火の中に (あなた達は) 投ずるな。  
→ 召使い達よ！火の中に葉 (pl.) を投ずるな。
- p. 73, -5 17. 敵達 (pl.) は、英雄たちに矢 (pl.) を投げる。  
→ 敵達 (pl.) は、兵隊に矢 (pl.) を投げる。
- p. 73, -3 18. 二人の先生のために宝石 (pl.) を我々は保管する。  
→ 二人の先生に宝石 (pl.) を我々は渡す義務を持っている。
- p. 75, -1 女王 → 王妃
- p. 76, 13 女王 → 王妃
- p. 76, -12 女王 → 王妃
- p. 81, -12 女王 → 王妃
- p. 84, -6 9. 母が到着したので少女達は花輪を整える。 → 母が到着したので少女達は花輪を作る。
- p. 84, -5 10. 賢者の言葉 (pl.) を詩人はまとめる。 → 賢者の言葉 (pl.) を詩人は集める。
- p. 85, 4 2. 王の眼前で王妃は姉妹に暇ごいをする。 → 王の眼前で王妃は姉妹に尋ねる。
- p. 85, 9 6. 肉をジャッカルは好む。 → キツネは肉を好む。
- p. 85, 10 7. 苦しみでも喜びでも女達は行者に相談する。  
→ 苦しみでも喜びでも女達は聖仙に相談する。
- p. 85, 12 9. 河の堤において敵達は戦う。 → 河の堤で敵達は戦う。

- p. 85, 13 10. 木から木に鳩達は飛ぶ。 → 木から木に鳩は飛ぶ。
- p. 85, 16 1. 天命によって敵達は村を攻撃して征服する。  
→ 天命によって敵は村を攻撃して征服する。
- p. 85, 18 2. 今日まで私はガンジス河を見ていない。 → 今日まで私はガンジス河を見たことがない。
- p. 85, -12 7. 礼儀正しい作法によって徳のある人は神を（彼の）主人として崇める。  
→ 正しい礼儀作法によって徳のある人は神を（彼の）主人として崇める。
- p. 85, -2 16. 天空と大地が素晴らしので、我々は神を支配者と崇める。  
→ 天空と大地が素晴らしいので、我々は神を支配者と崇める。
- p. 94, 4 10. 2人の賢者が言争う。 → 2人の賢者が言い争う。
- p. 94, 9 15. 王の息子は先生の娘と結婚した。 → 王の息子は先生の妹と結婚した。
- p. 94, 10 16. 友の到着に彼は注意を向けた → 友の到着について彼は考え続けた。
- p. 94, 11 17. 大地に草の山々がある。 → 大地に草の山々が点在する。
- p. 94, 17 23. 神の力を運命と仙人達は考える。 → 神の力を運命と聖仙達は考える。
- p. 94, -5 10. 彼はこのように話した、そして町の人々は王の力を賞賛した。  
→ 彼はこのように話した、そして町の人々は王の力を称賛した。
- p. 101, 10 5. 聴衆たちは先生の言葉 (pl.) を喜ぶべきだ。  
→ 聴衆たちは先生の言葉 (pl.) によって喜ぶべきだ。
- p. 101, 11 6. 私は兄弟と一緒に姉妹を探しましょう。 → 兄弟と一緒に姉妹を探しましょう。
- p. 108, 6 4. 昔、朝早く私は起きて、そして田畑 (pl.) に行った。  
→ ある時、朝早く私は起きて、そして田畑 (pl.) に行った。
- p. 108, 8 5. おお！指導者よ、「英雄達の軍隊には恐れがない」と、命じなさい。  
→ おお！指導者よ、「戦士達は軍勢に対して恐怖心を持っていない」と伝えなさい。
- p. 108, 15 9. 男 (pl.) と女達は立ち上がれ、そして敵達の恐れから国を解放しよう。  
→ 男 (pl.) と女達は立ち上がれ、そして敵の恐れから国を解放してください。
- p. 108, -13 14. もし悪人達が世の中において勝利を得るならば、聖者達は言葉を避けるであろう。  
→ もし悪人達が世の中において勝利を得るならば、聖者達は言葉を（使う事を）避けるであろう。
- p. 110, -11 u - -u
- p. 110, -10 mṛdu (甘い) → mṛdu (柔らかい)
- p. 110, -8 -u (中性形) …… 中性形 → mṛdu (n.) …… madu  
→ -u (中性形) …… 中性形 → mṛdu (n.) …… madhu
- p. 114, -12 ९ गुरून्भारान्दासाः शीर्षेऽकुर्वन् gurūn bhārān dāsāḥ śīrṣe 'kurvan  
→ गुरून्भारान्दासाः शीर्षेऽकुर्वन् gurūn bhārān dāsāḥ śīrṣe 'kurvan

- p. 116, 15 4. 寛大な母親に熟達した息子達は得難き宝石を与えなさい。  
 - 寛大な母親に善き息子達は得難き宝石を与えなさい。
- p. 117, 1 14. もし、あなたがやるべき事をしていれば、あなたは失敗しないだろう。  
 - もし、あなたがいつもの仕事をしていれば、あなたは失敗しないだろう。
- p. 117, 5 16. 敵の鋭い剣によって殺された英雄に栄光あれ。  
 - 敵の鋭い剣によって殺された戦士に栄光あれ。
- p. 117, 7 17. 村に行く聖者達は井戸の甘い水を御飲みなさい。  
 - 村に行く聖者達は井戸のおいしい水を御飲みなさい。
- p. 117, 13 20. 片目の召使いは柔らかい木々の山を燃やした。  
 - 片目の召使いは柔らかい木片の山を燃やした。
- p. 117, -8 22. 雄弁な王女に英雄達を導かせなさい。 - 雄弁な王妃は英雄たちを指導するべきだ。
- p. 117, -4 24. 村の人々は死んだ英雄たちの身体 (pl.) を川の岸に運んだ。  
 - 村の人々は死んだ戦士たちの身体 (pl.) を川の岸に運んだ。
- p. 117, -2 25. 病気で哀れな旅人たち (ganṭṛ) が、井戸の近くに立っていた。  
 - 病いにかかった哀れな旅人たち (ganṭṛ) が、井戸の近くに立っていた。
- p. 119, 7 śandhi - sandhi
- p. 123, -15 2. ある時、早朝に、彼 (王) によって町の掃除人は見られた。  
 - ある時、早朝に、彼 (王) は町の掃除人を見た。
- p. 123, -13 3. 彼に会って王は、激しく怒った。 - 彼 [掃除人] に会って王は、激しく怒った。
- p. 123, -10 4. そして、掃除人の処刑を命じた - そして、 [王は] 掃除人の処刑を命じた
- p. 123, -8 5. 王の命令によって罪の無い人は戸惑った。 - 王の命令に罪の無い人は戸惑った。
- p. 123, -6 6. 王の集会の場にスマティと呼ばれる廷臣がいた。  
 - 王の宮廷にスマティと呼ばれる廷臣がいた。
- p. 124, 7 12. 彼ら二人を王によって見られたので。 - 彼ら二人を王は見たので。
- p. 124, -11 18. また王が、早朝、私を見たのです。 - 言ってみれば早朝、王もこの私を見たのです。
- p. 124, -9 19. 王が私を見たにもかかわらず彼 (王) の処刑は無い (というのは、おかしい)  
 - 王が私を見たにもかかわらず、彼 (王) の処刑が無い (というのは、おかしい)
- p. 124, -6 20. 私たち二人のうちどちらの方が卑しき者なのか。  
 (※王の方が処刑 [殺人] を犯すことになり、私に比べて卑しき者になるのではないか。)  
 - 私たち二人のうちどちらの方が悪人なのか。  
 (※王の方が処刑 [殺人] を犯すことになり、私に比べて悪人になるのではないか。)
- p. 124, -4 21. 王はこの言葉を考えた。 - 王はこの言葉を (聞いて) 考えた。

- p. 129, -11 yūvāṃ kūpaṃ rakṣetaṃ → yuvāṃ kūpaṃ rakṣetaṃ
- p. 133, 1 3. ラーマはシーターを森にすてた。 → ラーマはシーターを森に置き去りにした。
- p. 133, 5 5. あなたたちはあの話を語れ。 → あなたたちはあの話を語りなさい。
- p. 133, 9 7. 英雄たちと共に指導者について行こう。 → 戦士たちと共に指導者について行こう。
- p. 133, -6 17. その果てしなき海は多くの英雄たちによって見られた。  
- その果てしなき海は多くの戦士たちによって見られた。
- p. 133, -4 18. その泥棒を捕えよう。 → その泥棒を捕えなさい。
- p. 139, -2 5. 卑しき者との交友や愛情関係を結ばすべきではない  
- 悪人との交友や愛情関係を結ばすべきではない
- p. 148, 7 ३ त्वां बालम् इव क्रोधो जयति tvāṃ bālam iva krodho jayati  
- अपि त्वं गच्छसि api tvāṃ gacchasi
- p. 151, 7 3. 子供のようにあなたへの怒りが静まる。 → あなたも行くのですよね？
- p. 151, 9 4. どちらの先生 (du.) をあなたは、見ますか？  
- どちらの先生 (du.) にあなたは、会いますか？
- p. 197, -7 (1.114) śīrṣe - śīrṣe
- p. 197, -5 (1.114) śīrṣe √kr̥ - śīrṣe √kr̥

2009年2月15日時点